

日銀は来年4月から国債買入れの減額ペースを縮小へ

- 日銀は金融政策決定会合で政策金利(0.50%)を据え置き
- 来年4月以降は国債買入れの減額ペースを縮小して継続
- 経済・金融市場情勢を慎重に見極めつつ正常化を模索へ

■ 日銀は政策金利を0.50%で据え置き

日銀は16-17日金融政策会合で政策金利据え置き（無担保コール翌日物金利:0.50%）を決定しました（図1）。背景として、国内景気は一部に弱めの動きがあるが緩やかに回復、先行きについては海外経済復調に伴い成長率を高めるとしました。また物価については、基調的な上昇率は景気鈍化を受け伸び悩むが、景気回復に伴い徐々に高まるとし、前回会合時の見解を概ね踏襲しました。

他方、リスク要因についても、各国通商政策の行方やその影響による海外経済動向を巡る不確実性が極めて高いため、金融・為替市場や国内経済・物価への影響を十分注視すべきと言及、大きな変更はありませんでした。

■ 国債買入れの減額を継続もペースは縮小

また日銀は国債買入れ減額計画の中間評価を実施、2026年3月まで現行計画（月間の国債買入れ額を四半期毎に4,000億円程度ずつ減額）を維持、同年4月以降はこの減額ペースを2,000億円程度ずつに緩めるとしました。

今年に入り、米国やドイツ新政権の財政拡張方針に端を発した世界的な財政悪化リスクへの警戒に加え、米国格下げなどの影響が国内債券市場にも波及、長期・超長期金利の上振れが目立つ場面もありました。日銀の国債買入れ減額が国債需給悪化を通じ金利上昇を加速させるとの懸念も意識されたなか、5月下旬の債券市場参加者会合での幅広い意見をもとに、市場に配慮した印象です。

■ 金融政策正常化への姿勢を堅持する日銀

ただし、国債買入れは減額ペースこそ縮小も減額自体は続けるとの決定は、金利は市場で形成されるべきとする日銀の本音を示唆しています。金利についても、植田総裁が実質金利は極めて低いと指摘しており、金融政策正常化を目指す姿勢は揺らいでいない模様です（図2）。

今後の政策調整は米トランプ関税や中東など地政学リスクを巡る世界経済・金融市場の動揺が収まるか次第ですが、日銀が賃金・物価の好循環は途切れず、基調的なインフレ率は2%に向け高まるとの見方を保つ間、年内の追加利上げ観測は引き続き意識される見込みです。（瀧澤）

【図1】 不確実性高い環境下での利上げは見送り、最近の長期金利急騰を受け市場に配慮も



注) 政策金利は無担保コール翌日物金利誘導目標（2001年3月19日～2006年3月8日および2013年4月4日～2016年1月28日は無担保コール翌日物金利、2016年1月29日～2024年3月18日は日銀当座預金うち政策金利残高適用金利で接続）。直近値は2025年6月16日。

出所) Bloombergより三菱UFJアセットマネジメント作成

【図2】 金融緩和的水準と指摘される実質金利、経済・市場環境が落ち着けば水準訂正を模索へ



注) 実質金利＝名目金利－期待インフレ率。ここでの期待インフレ率はブレークイーブン・インフレ率。直近値は2025年6月16日。

出所) Bloombergより三菱UFJアセットマネジメント作成

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 本資料は、投資環境等に関する情報提供のために三菱UFJアセットマネジメントが作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 各ページのグラフ・データ等は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の三菱UFJアセットマネジメント ストラテジック・リサーチ部リサーチグループの見解です。また、三菱UFJアセットマネジメントが設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。



三菱UFJアセットマネジメント

三菱UFJアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会